



AREA WEB



☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒ 峡東教育事務所からのお知らせ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒

本号をもって令和5年度のエリアウェブは終了となります。取材等で多くの方にご協力いただき、感謝申し上げます。なお、3月中も取材は継続しますので、情報等ありましたら担当（教育支援スタッフ・地域担当）までご連絡ください。☎ 0553-20-2731 (直通)

PDF版はこちら

峡東教育事務所のHPに掲載中！
「エリアウェブ」で検索 🔍



「地域を知ること」～ふるさと学習（塩山中央地区）～ 甲州市立塩山北小学校



長い間受け継がれてきた歴史を感じる

塩山北小学校の2年生を対象に「ふるさと学習」が行われました。社会教育委員の雨宮巨さんを講師に迎えて、約1時間半の地域散策を行いました。まず校庭で雨宮さんから塩山北小学校開設当時の話をしてもらいました。当時は畑の中にぽつんと学校が建



小学校→警察署→図書館→中央区民会館と変遷

っていたことや児童数は800人いたことなどを聞いて子どもたちは「えー！」「そうだったんだ・・・」などと声を上げます。そして散策の開始。まず登録有形文化財に指定されている飯島家屋敷を訪れます。入口の長屋門は江戸時代に作られた風格ある切妻造鉄板葺。特別に子どもたちは通用門から入ることを体験しました。庭には千両・万両・金木犀などの木々が植えられており、それぞれに意味があることを教えてもらいました。続いて中央区民会館、正覚寺を訪れて由来や周辺施設との関連を学びました。話に耳を傾けながら、しっかりメモを取る子どもたち。今日学んだことを次世代の子どもたちにも伝えてくれるはずです。



青空のもとでの楽しい時間となりました

「プログラミング教室」～PC上のネコを動かし図形を描く～ 笛吹市立富士見小学校



自然と教え合う雰囲気の子どもたち

富士見小学校では4～6年生を対象にプログラミングを学ぶ機会を設けています。今回は4年2組での「プログラミング教室」を取材しました。講師は産業技術短期大学の安本岳志教授が務めます。本時の目標は「正三角形を描くプログラムの作成」です。パソコン画面上のポインタ（通称ネコ）は児童の指示通りに動きます。「10歩進め」「ペンを下ろせ」「15度回転せよ」などの命令を駆使しながら多角形を描いていきます。最初に取り組んだ正方形は比較的順調に描くことができました。次は正三角形ですが、児童はことのほか苦戦して

います。（補角の考え方が必要のため。中には正六角形の下半分を描く児童もいました。）試行錯誤とアイデアを共有する中でなんとか正三角形もクリアしました。最後に応用として正n角形への一般化を考えます。回転する角度と辺の数の関係性をじっくり考えます。そしてある法則性に気づきます。これを利用して試しに正百角形を描いてみると「あれ、円に見えるけど？」という言葉。高校で学ぶ「極限」の考え方的一端にも触れることができた気づきの時間となりました。



正n角形に拡張するカギは何だろう？

「第一線の研究者からの言葉」～ Science Academy ～ 県立日川高等学校



災害の歴史から対応すべき点を学ぶ

日川高校は平成 24 年度に文部科学省からスーパーサイエンススクール（SSH）に指定され、社会の変化や地域の課題を科学的に探究することで論理的思考力・創造性を身につけた人材の育成を目指しています。今回はOBの黒沢建設・神津和大さんが「高耐久性構造物によって人々の暮らしを支えるプレストレスト・コンクリート技術」をテーマに講演を行いました。コンクリートは圧縮力に強く、引張力に弱いという特性があります。プレストレスト・コンクリートは事前にコンクリート部材に圧縮力がかかった状態（プレストレス）にし、荷重を受けた時にコンクリートに引張応力が発生しないようにしています。鉄筋コンクリートに比べひび割れを防ぐことができます。生徒は日産スタジアム等の構造物や山の斜面での活用事例を見る中で、科学技術が社会基盤を支えていることを学びます。最後に第一線で活躍するOBから将来に向けてのアドバイスでの『目標を持つこと・成長のチャンスを逃さない・立ち止まって物事を俯瞰してみる・ますますのグローバル化で英語は必須』という言葉は、経験に基づく重みがありました。



橋や日産スタジアム等の活用事例

「選挙疑似体験」～決断するために必要なこと～ 甲州市立神金小学校・甲州市選挙管理委員会



選挙の歴史から気づくことも多い

選挙は国民が政治に参加し、自分たちの意志を政治に反映させる手段です。選挙を通じて、法律や予算などの重要な決定を行う権限を持つ人物を選びます。神金小学校の6年生を対象にした「選挙疑似体験」では、実際の選挙で使用される投票用紙と投票箱で投票を行いました。甲州市選挙管理委員会の清雲さんと平山さんが講師をつとめ、まずは選挙の目的や選挙システムについて学びます。その中で清雲さんからの質問、『Q 票数が同数の場合はどうしますか？』正解は『A くじ引きで当選者を決める』です。方法は各市町村によって異なりますが、甲州市では写真にある器具を使って当選者を決定するそうです。児童は投票する際に選挙公報を見ながら「誰にしようかな・・・」と悩んでいました。自分たちの意見を反映させるためには、情報を精査しながら決断をしなければならぬことを経験することができました。



選挙公報を見ながら投票を行います



同数の場合はくじ引きで当選者を決定

「いきいき合唱指導」～感謝の思いを込めて歌いあげる～ 笛吹市立御坂東小学校



歯擦音を意識することが大事

春の訪れと共に卒業式の季節がやってきます。御坂東小学校の6年生8名は、講師の穴山芳美先生の熱い指導のもと、心をひとつにしながらか「旅立ちの日」の練習に励んでいます。子どもたちの真剣な眼差しと力強い歌声は音楽室を満ち、心に響きわたります。一人ひとりが大切に歌う歌詞は学校生活を振り返りつつ、新たな旅立ちへの期待と希望を込めたもの。これまでに経験した喜び、悲しみ、挫折、そして成功のすべてを表現しています。それは子どもたちが学んだこと、成長したこと、そしてこれから迎える新たな挑戦への準備を象徴しています。卒業式当日には会場いっばいに素晴らしい歌声が響き渡ることでしょう。その歌声は、新たな旅立ちを祝うものであり、これまでの日々への感謝の気持ちを含めたものになるはずで、卒業生の歌声が新たな道を切り開く力となり、自身の未来を明るく照らすことを願っています。



言葉に思いを込めながら歌いあげる

「親子コサージュづくり」～卒業式に向けての大切な時間～ 山梨市立笛川小学校



講師の岡さんから説明を受ける



花の中心に向けての角度が重要

コサージュには将来の安全や健康を守る願いが込められています。15世紀のヨーロッパでは女性が胴着に花を装飾して着飾りました。その花飾りが花束を意味する bouquet de corsage (ブケドウコルサージュ) と呼ばれ始めます。そして時がたつにつれて言葉が短くなり、現在の corsage (コサージュ) になったそうです。1月12日に笛川小学校の6年生を対象に「親子コサージュづくり」が行われ、27組54名の親子が参加をしました。はじめの会で学年PTA役員から「きれいなコサージュを作って卒業式をむかえましょう」という挨拶があり、講師の指導のもとでコサージュづくりが始まりました。ポイントは花を中心にきれいな角度でキュッとまとめること。協力しながら1時間半の作業を終えて、児童からは「最後にきれいに整えるのが難しかった」「お母さんと協力して思い出ができた」という感想がありました。母校での親子活動は今回が最終となりますが、親子で同じ時間を共有できた体験は生涯忘れることはないでしょう。



小学校での最後の親子活動

「書を通して伝えていく」～教えてみて分かること～

NPO法人すてっぴあっぷる・県立塩山高等学校書道部

「書道の楽しさを知る・自分らしい書き方を学ぶ」を目的とするこのイベントは冬の定例行事でしたが、コロナウイルスの影響があってしばらくの間休止されていました。種々の対応をする中で昨年度再開することができ、市内の子どもたちを対象に塩山高校書道部の1・2年生が指導を行いました。最初はお互いに遠慮がちな高校生と子どもたちでしたが、少しずつ言葉を交わす中で自然とふれあうようになりました。子どもたちは楽しみながらも真剣に取り組むことで、あっという間に上達していきます。ラーニングピラミッドの考え方にもとづくと、「学習した内容を人に教える」のが最も効果的な学習法とのことです。子どもたちだけでなく、教える側の高校生も自然と成長していたはずで



楽しみながらも真剣に書に取り組む



丁寧に思いを込めて書くことが大切



高校生の丁寧な指導のおかげで上達も早い

「スマートグラス体験」～山梨DXマインド熟成授業から～ 笛吹市立石和西小学校



すでに実社会でも活用されている

1月23日に石和西小学校において、デジタル体験授業(スマートグラス)が行われました。スマートグラスは情報を視覚的に提供する革新的なデバイスです。AR技術を活用しユーザーが現実世界を見ながらデジタル情報を視覚的に受け取ることができます。すでに多くの分野で活用されており、医療分野では手術中に医師



スマートグラスから情報を発信

が患者の生体情報をリアルタイムで確認でき、製造業では作業手順をスマートグラス表示させることで作業者が両手を使うことが可能となっています。子どもたちはスマートグラスを通じて、視覚・音声情報を別室の中間に転送してクイズの解答を協力しながら考えます。昔はアニメの中にだけ存在したテクノロジーが現実社会での「当たり前」になっている急激な進化。SF作家ジュール・ヴェルヌの言葉である『人間が想像できることは、人間が必ず実現できる』を実感した時間となりました。



送られた情報からクイズの答えを推理

「バスケットボールの楽しさを知る」～山梨クイーンビーズの出前授業～ 県立ろう学校



手話を交えた自己紹介で場が和む



選手相手にドリブル突破を狙う

1月17日にろう学校の体育館において「山梨クイーンビーズの出前授業」が行われ、女子バスケットボールのトップリーグ（Wリーグ）で活躍する山梨クイーンビーズの選手全員が来校しました。子どもたちがバスケットボールの楽しさ・魅力に触れ、運動や健康への興味関心を高めることを目的としています。自己紹介から始まってストレッチ・パス練習・シュート練習、最後にミニゲームを行いました。授業中は子どもたちからの「やった！」「頑張ってる！」という声が体育館に響き渡り、シュートが決まるたびに、子どもたちと選手は一緒になって大喜び。授業の終わりには感謝の言葉を交わすことで、体育館は一体感と達成感に満ちた空間となりました。今回の交流はスポーツのもつ可能性を示しながら、スポーツを通じてコミュニケーションを深める機会となりました。今後もこのような活動が継続できることを願っています。



渾身のシュートが決まるか!?

「伝えることで地元の魅力を再認識」～北海道計根別学園との交流～ 甲州市立松里中学校



思いをこめた言葉でのプレゼンテーション



ブレイクアウトルームでの意見交換

1月19日松里中学校において、ZOOMを介しての交流授業『北海道と交流！～私たちの産業と文化～』が行われました。松里中と北海道中標津町立計根別（けねべつ）学園の生徒が「自然環境を活かした食料生産」「地域に根ざした食料生産」「世界遺産をいかした観光業」「地域の歴史」についてそれぞれ発表を行い、発表後にはブレイクアウトルームで意見交換を行いました。松里中の発表テーマは「ぶどう・桔露柿・富士山・恵林寺」、計根別中の発表テーマは「自然と暮らし・酪農・観光とアイヌ文化・北方領土とロシア」でした。班によって資料のまとめ方や発表方法は異なりましたが、単なる事実の羅列ではなく、「実際に生活しているからこそその空気感」も伝わる発表となりました。お互いの発表や意見交換を通じて、あらためて身近に存在しているもの大切さにも気づくことができました。

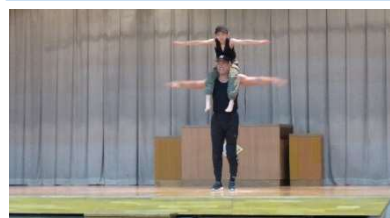


北海道の雄大な自然について学ぶ

「ステージで躍動せよ！」～M（南小）-1 グランプリ～ 笛吹市立石和南小学校



2年と3年によるado「唄」のダンス



先生も登場してのパフォーマンス

1月24日に石和南小学校体育館において「M-1 グランプリ」が行われました。出演者は児童会が募集して計20組が体育館のステージでパフォーマンスを行いました。内容はダンス・大縄・ヨーヨー・一輪車など多種多様。約1分間のステージに1年から6年までの出演者が全力で取り組みました。M-1は中休みと昼休みに行われ、参加は自由。座る場所や応援の仕方子どもたちが自然に決めていきます。パフォーマンス中は会場から大きな声援が上がり、ダンスでは一緒に踊る子どもたちもいて会場はノリノリの雰囲気。サプライズで先生も登場して渾身のパフォーマンスを見せました。（昨年度は校長先生がジャグリングを披露）最後は会場全体で「ジャンボリ・ミッキー！」のダンスを全力で踊りきり、熱狂の宴は終演となりました。



最後は全員で「ジャンボリ・ミッキー！」

「山梨の伝統工芸を学ぼう」～篆刻（てんこく）体験教室～ 山梨市立八幡小学校



奥から手前に押し込む。その繰り返し

1月22日に八幡小学校の4年生を対象に「伝統工芸体験」が行われました。市川三郷町の上田さんと中央市の遠藤さんを講師に迎えて、篆刻に取り組みました。山梨県の伝統工芸品である「甲州手彫印章」は、その美しい印影と独特の風合いから高く評価されています。水晶、柘、水牛などの印材を使用し、熟練した職人が一つ一つ丁寧に手作りしています。



金印のレプリカに興味津々

高度な技術と繊細な感性により美しさと品質を保ち続け、平成12年には経済産業大臣から伝統的工芸品の指定を受けています。今回の彫り方は白文（はくぶん）といって、文字の部分を彫って他を残す方法です。印刀は引き刀といって、手前に引きながら掘る作業を進めます。はじめは力加減が分からず苦戦していましたが、時間がたつごとに自信を持って掘り進めていきます。完成時は誰もが満足げな表情を浮かべています。また、昨年度県立博物館で好評を博した「漢委奴国王印」のレプリカが展示され、子どもたちは金印に実際に触ることで、古代のデザイン・技術の高さも知ることができた時間となりました。

「一回でも使ったら薬物乱用です！」～薬物乱用防止教室～ 甲州市立東雲小学校



市販薬も用法と量を守ることが大事

1月31日に東雲小学校の6年生を対象に「薬物乱用防止教室」が行われました。最初に講師である峡東保健福祉事務所の土屋さんから児童に質問がありました。『薬物乱用はどちらだと思いますか？①何回も薬物を使用すること ②一回だけ使用すること』児童の答えは①②が半々でしたが、正解は②です。一回の使用でも依存症になる可能性があり、時には死にいたることさえあります。法律で使用・保持が禁止されている薬物とは別に、市販薬であっても用法や量を守らないと薬物乱用につながってしまうこともあります。つらいことや嫌なこと



養護教諭の先生からもアドバイス

から一時的に逃れるために薬物を大量摂取する「オーバードース」は、小学生の間でも問題になっているそうです。また、大麻等の違法薬物を使用するきっかけは、ほとんどの場合が「身近な知り合いや先輩などから勧められた」ことによるそうです。『本当の友達とはタバコや薬物を勧めることはありません。誘われても、きっぱりと断る勇気が大切です！』土屋さんや養護教諭の先生が繰り返し児童たちに伝えていた言葉です。

「ミュージカルごんぎつね」～教科書とは違う楽しみ方～ 笛吹市立境川小学校



怒りに震える兵十の鉄砲が「ごん」を狙う

1月24日に境川小学校において劇団東少による「ミュージカルごんぎつね」の公演が行われました。「ごんぎつね」は新美南吉が18歳の時に発表したもので、小学校の国語教科書の定番とも言える作品です。南吉の出身地である愛知県半田市を舞台に書かれており、南吉が幼いころに聞いた口伝をもとに創作されました。4歳で母を亡くしたときの孤独感と、伝え聞いた悪戯好きな狐の話が深く影響したと言われています。ミュージカル鑑賞で得られる学びは「ストーリーテリング」「芸術的表現の方法」「文化的理解」「注意力と集中力の養成」などがあり、これらは子供たちが社会的・学術的な成功を収める際の土台となるそうです。寒波が非常に厳しい日でしたが、児童は舞台上で演じられるパフォーマンスに見入っていました。教科書で学んだときとは一味違う作品の楽しみ方を知ることができた時間になったはずで



劇団の代表から記念色紙をいただきました



痛快な歌と踊りで会場を楽しませる

「自信を持って挑戦する」～コミュニティスクール講演会～ 山梨市立山梨南中学校



エネルギー溢る言葉を生徒に投げかける

2月1日に山梨南中学校において、ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ代表取締役社長の佐久間悟さんを講師に招いて「コミュニティスクール講演会」が行われました。在校生・保護者・地域の方を対象に、会場・オンライン併用のハイブリッド形式で実施しました。講演の終盤で佐久間さんから「学校+家庭+地域」が連携する教育の大切さについて言及がありました。多様化が急激に進む現代社会においていわゆる納得解を探すためには、色々な組織が連動すること・外部の声に耳を傾けること・視野を広げることなどが重要であるそうです。また、山梨の良さとして「規律正しさ・マナー・学生の向き合い方」が挙げられました。『山梨の人は日本の中でもっとリーダーシップを発揮できるはず。自信を持って行動してほしい』という言葉は、生徒だけでなく大人にも向けられていたと感じました。



生徒や教員から質問が相次ぐ

広げることなどが重要であるそうです。また、山梨の良さとして「規律正しさ・マナー・学生の向き合い方」が挙げられました。『山梨の人は日本の中でもっとリーダーシップを発揮できるはず。自信を持って行動してほしい』という言葉は、生徒だけでなく大人にも向けられていたと感じました。

「もうひとつの高校選手権 2023」～ひたむきにボールを追え～ 高等支援学校桃花台学園



関東の壁を突破し全国の舞台へ

12月17日に駒澤オリンピック公園補助競技場において、第9回全国知的障害特別支援学校高等部サッカー選手権「もうひとつの高校選手権2023」の予選会が開催されました。全国大会の関東地区代表枠を決める予選会で、関東地区の高等支援学校が4つの代表権をかけて争いました。初戦は東京都立水元小合学園と対戦して10対0での快勝。多くのゴールを決めることができ、幸先のよいスタートをきることができました。代表決定戦では東京都立志村学園との対戦。先制点を取った後は一進一退のゲーム展開でしたが、みごと1対0での勝利。最後まで耐え抜いて全国大会出場を決めることができました。1月に静岡県で行われた全国大会ではすべて1点差のゲームとなりましたが、最終試合で長崎県立希望が丘高等特別支援学校に1-0で勝利して、全国で9位となりました。最終戦までの長い過程をとおして、生徒たちは技術面だけでなく、精神面においても大きく成長することができました。



1点の重みを感じるゲーム展開



全国大会でみんなの心を合わせて

「活動実践全体発表会」～県内6教室の2年生による発表～ 山梨ことぶき勸学院

甲府A 教室発表



「山梨における縄文遺跡を訪ねて」

1月26日に県立文学館ホールにおいて「山梨ことぶき勸学院活動実践全体発表会～まなびの活用を目指して～」が行われました。県内6教室から全生徒が集い、それぞれが「縄文遺跡・武田家旧跡・徳島せぎ・西嶋和紙・郡内地方の発展・カルタづくり」をテーマにパワーポイントによる発表を行いました。発表は自身の持つ知識やアイデアを形にする行為です。それは自己成長の鍵であり、他人と共有する機会でもあります。今回の発表にむけて生徒たちは資料を集めるだけでなく、学習会や実地調査等も行ってきました。発表の練習を繰り返し、直前までパワーポイントや台本の変更を行う姿はなんら高校生と変わることはありません。当日はほぼ満員の会場の中で緊張しながらも思いが伝わるよい発表となりました。今回の発表を通じて、知識の整理・ICTスキル向上・新たな視点の獲得など多くの点で成長することができました。

甲府B 教室発表



「武田家にまつわる旧跡に光を当て次代に繋げる」



受付は生徒2名ずつで担当

※※現在 令和6年度の学生募集中です！（詳細は県HPで確認）※※

出願期間：令和6年2月1日（木）～3月15日（金）

出願先・問合せ先：山梨ことぶき勸学院（事務局）☎055-233-6947

